

# 病院歯科・口腔外科 医療用語集

- 第1章 医局・医療スタッフ
- 第2章 診療科名
- 第3章 病院・医療
- 第4章 病歴関連用語
- 第5章 治療方針
- 第6章 解剖学用語
- 第7章 病理組織学的診断
- 第8章 腫瘍に関する用語
- 第9章 再建術
- 第10章 画像診断
- 第11章 現症
- 第12章 既往歴・疾患名
- 第13章 感染症
- 第14章 歯科・口腔外科の病名
- 第15章 薬物療法
- 第16章 薬剤
- 第17章 輸血・骨髄移植
- 第18章 注射法
- 第19章 化学療法
- 第20章 免疫療法・分化誘導療法
- 第21章 処置・治療
- 第22章 器材
- 第23章 バイタルサイン
- 第24章 尿検査
- 第25章 クレアチニンクリアランス
- 第26章 血液ガス分析
- 第27章 臨床検査
- 第28章 腫瘍マーカー
- 第29章 放射線療法
- 第30章 食事療法
- 第31章 看護用語

デンタルオフィスみなと 1st edition 1998.6.19

英：英語 独：ドイツ語 ラ：ラテン語 仏：フランス語 同：同義語 略：略語 例：使用例  
形：形容詞 関：関連事項 反：反対語 和：日本語 和製英：和製英語 商：商品名  
注：注意事項

## 第16章. 薬剤

アスピリン(各社)

aspirin[英]一般名アセチルサリチル酸(acetylsalicylic acid)。アセチルのア(a)、サリチル酸を含むバラ科シモツケソウ属(Spiraea)のスピル(spir)に物質語尾のinをつけたのがアスピリンであり、ピリン系ではない。安価である。生体内でプロスタグランジンの合成を阻害する。少量(300mg以下)では抗血小板作用を発揮するが、大量投与では、血管内皮におけるプロスタサイクリンの合成を阻害し、むしろ血栓をできやすくしてしまう可能性がある(アスピリンジレンマ)。なお、アスピリンという名称はバイエル社の商標名である。

アダラート<sup>R</sup>

Adalat<sup>R</sup>[商]一般名nifedipine。Ca拮抗薬の一つ。アダラートカプセル(5・10mg)と、徐放剤であるアダラートL錠(10・20mg)がある。陰性変力作用を持つので、重症高血圧による高血圧性心疾患に対しては第一選択となる。アダラートカプセルの舌下投与で血圧をコントロールしたあと経口投与にきりかえる。

アンサー<sup>R</sup>20注

Ancer<sup>R</sup>[商]Z-100(結核菌熱水抽出物)。白血球減少治療薬の一つ。造血幹細胞に働く造血因子であるCSFの内因的な誘導を促進する。放射線治療時、1日1回1A週2回皮下注。丸山ワクチンの項、G-CSFの項参照。

インターフェロン

interferon (IFN)[英]インターフェロンは、ウイルスに感染した細胞が作り出すたんぱく質で、ウイルスの増殖を抑える効果がある。三つの型があり、アルファは主にヒトの白血球から、ベータは線維芽細胞から、ガンマはT細胞から作られる。肝炎や腎(じん)がんの治療などに使われる。C型肝炎の治療にはアルファとベータが有効。アルファは遺伝子工学的手法で大量生産が可能になった。

◇ インターフェロン治療は、すべてのC型慢性肝炎患者に効くわけではない。厚生省の研究班や臨床例の多い病院での統計によると、著しい効果があるのは、全体の三〜四割の症例。ウイルスが完全に消える割合は、さらに低い。しかし、インターフェロンが効かなかった人も含めたC型慢性肝炎患者全体の九五%までが、強力ネオミノファーゲンCなど別の薬で肝炎症状を抑えることができる。

ウログラフィン<sup>R</sup>

Urografin<sup>R</sup>60%,76%[商]造影剤の一つ(一般名アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン)。唾液腺造影では76%のものを0.5-1ml用いる。

エンピナーズ<sup>R</sup>

Empynase<sup>R</sup>[英]一般名プロナーゼ(pronase)。消炎酵素薬の1つ。慢性副鼻腔炎などに用いられる。

オピウム

opium[英ラ]阿片(あへん)

オピオイド

opioid[英]中枢神経系オピオイド受容体に作用する鎮痛薬の総称。hit hard and early[英]AIDSの発症を抑制するカクテル療法が1996年より用いられ、効果を上げている。これは、リンパ球内でHIVが複製されるのを阻害する逆転写阻害酵素剤(AZT, ddI, ddCなど)と、複製品が完成するのを邪魔するプロテアーゼ阻害剤を組み合わせるものである。通常、逆転写酵素阻害剤を2種類、プロテアーゼ阻害剤を1種類、投薬する。英語では、“Hit hard, hit early”(早い時期にガツンとたたきのめす)という。

カクテル療法

### 【HIV化学療法薬】

- ①ヌクレオチド系逆転写酵素阻害薬：●ジドブジン(AZT)、●ジダノシン(ddI)、●ザルシタピン(ddC)、●ラミブジン(3TC)、●サニルブジン(d4T)
- ②非ヌクレオチド系逆転写酵素阻害薬：○ネビラピン
- ③プロテアーゼ阻害薬：●塩酸インジナビル エタノール付加物、

	○リトナビル、○ネルフィナビル、○メシル酸 サキナビル (●印：承認済み ○印：申請中または治験中 資料：日本製薬工業協会：JPMA R&D UPDATE NO.1)
葛根湯(かっこんとう)	発汗作用があるため、風邪のときこれを処方する <sup>29)</sup> 。
漢方薬	chinese medicine[英]
カマ	magnesia ustae(マグ ウスタ)[ラ]酸化マグネシウム(制酸剤)
口腔用剤	顎口腔領域の疾患に対して口腔内に投与される外用薬。
アズノール <sup>R</sup>	Azunol <sup>R</sup> [英]含嗽薬の一つ。イソジンなどに比べ刺激性が少ない。錠2mg、ガーグル顆粒0.5g(1包)中2mg。約100mlの水又は微温湯に溶解し、1日数回含嗽する。
アズノールS T <sup>R</sup>	Azunol ST <sup>R</sup> [商]アズレンスルホン酸ナトリウム5mg含有。口腔内炎症治療薬の一つ。徐放性挿入錠である。左右いずれかの上顎の歯肉口唇移行部に挿入する。
アフタッチ <sup>R</sup>	Aftach <sup>R</sup> [商]患部粘膜に付着させて用いるアフタ性口内炎治療薬。ステロイド剤であるトリアムシノロンアセトニド0.025mg含有する。1患部に1回1個、1日1-2回貼付する。
イソジンG	Isodine gargle <sup>R</sup> [商]イソジンガーグル <sup>R</sup> (含嗽液7%)。30ml, 250mlがある。一般名ポピドンヨード。用時15-30倍に希釈し、1日数回含嗽。
ケナログ <sup>R</sup> 軟膏	Kenalog <sup>R</sup> [商]ステロイド剤であるトリアムシノロンアセトニド1.0mg/g含有する口腔用の軟膏(2g・5g/本)。
サリベート <sup>R</sup>	Saliveht <sup>R</sup> [商]人工唾液の一つ。剤形は、噴霧式エアゾールである。口腔乾燥症に適応。
サルコート <sup>R</sup>	Salcoat <sup>R</sup> [商]ステロイド剤であるプロピオン酸ベクロメタゾン含有する。口腔噴霧カプセル(50μg)。専用の小型噴霧器を用いて均一に噴霧する。
デキササルチン <sup>R</sup> 軟膏	Dexaltin <sup>R</sup> [商]ステロイド剤であるデキサメタゾン dexamethasone を0.1%含有する。口腔用(2g・5g/本)。
テラマイシン <sup>R</sup> 眼軟膏	Terramycin <sup>R</sup> [商]一般名塩酸オキシテトラサイクリン。1g中、塩酸オキシテトラサイクリン5mg、硫酸ポリミキシンB1万単位(3.5g/本)。比較的味が良いとされ、口腔内にも用いられる。テラマイガーゼの項参照。
ビダラビン軟膏	vidarabine[英]抗ウイルス薬。単純疱疹、帯状疱疹に有効。(例)ゾビラックス <sup>R</sup> (Zovirax <sup>R</sup> )軟膏(5%, 5g/本)、アラセナ-A <sup>R</sup> (Arasena-A <sup>R</sup> )軟膏(3%, 2g・5g・10g/本)など。
フロリード <sup>R</sup>	Florid <sup>R</sup> [商]一般名ミコナゾール miconazole(略MCZ)。ゲル経口用は2%(5g/本)。1日200-400mg(10-20g)、分4(食後・就寝前)。抗真菌薬であり、口腔および食道カンジダ症に適応。口腔内にまんべんなく塗布。病巣が広範囲に存在する場合には、口腔内にできるだけ長く含んだ後、嚥下する。
抗生物質	antibiotic[英] 1)経口用

【歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎に適応がある経口抗菌剤の例】

1998年4月現在

商品名	略号	用法
ペニシリン系		
ヤマシリン	Yamacillin TAPC	カプセル 250mg 1回 250mg 1日 3-4回
タカシリン	Takacillin LAPC	錠 250mg 1回 250mg 1日 3-4回
バラシリン	Varacillin LAPC	錠 250mg 1回 250mg 1日 3-4回
セフェム系		
ケフラール	Kefral CCL	カプセル 250mg 細粒(小児用)10% 1日 750mg 分3
セフゾン	Cefzon CFDN	[児]体重 20kg 以下 細粒 1日 20-40mg/kg 分3 カプセル 50・100mg 細粒(小児用)10% 1回 100mg 1日 3回
メイアクト	Meiact CDTR-PI	[児]細粒 1日 9-18mg/kg 分3 錠 100mg 小児用顆粒 100mg/g 1回 100mg 1日 3回
オラセフ	Oracef CXM-AX	[児]小児用細粒 1回 3mg/kg 1日 3回 錠 250mg 1回 250mg 1日 3回

フロモックス	Flomox	CFPN-PI	錠 75・100mg 細粒(小児用)10% 1回 150mg 1日 3回 [児]小児用細粒 3mg/kg 1日 3回
バナン	Banan	CPDX-PR	錠 100mg ドライシロップ 5% 1回 100mg 1日 2回 [児]ドライシロップ 1回 3mg/kg 1日 2-3回
トミロン	Tomiron	CFTM-PI	錠 50・100mg 1回 300-600mg 分 3
ニューキノロン系 クラビット タリビッド オゼックス ロメバクト スバラ メガロシン	Cravit Tarivid Ozex Lomebact Spara Megalocin	LVFX OFLX TFLX LFLX SPFX FLRX	錠 100mg 細粒 10% 1回 100mg 1日 2-3回 錠 100mg 1日 300-600mg 分 2-3 錠 75・150mg 1日 300-450mg 分 2-3 カプセル 100mg 1回 100-200mg 1日 2-3回 錠 100・150mg 1回 100-300mg 分 1-2 錠 100・150mg 1回 200-300mg 1日 1回
マクロライド系 クラリス	Clarith	CAM	錠 50mg(小児用)・200mg 顆粒(小児用)10% 1日 400mg 分 2 [児] 1日 10-15mg/kg 分 2-3
クラリシッド	Klaricid	CAM	錠 50mg(小児用)・200mg 顆粒(小児用)10% 1日 400mg 分 2 [児] 1日 10-15mg/kg 分 2-3
ルリッド	Rulid	RXM	錠 150mg 1日 300mg 分 2
ベネム系 ファロム	Farom	FRPM	錠 150・200mg ①歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎：1回 150-200mg 1日 3回 ②副鼻腔炎：1回 200-300mg 1日 3回

## 2)注射剤

- ①ペニシリン系：アミノペニシリンとしてドイル(Doyle, 略 ASPC)など。合剤としてビクシリン S (Viccillin S)など。
- ②セフェム系：第1世代としてセファメジン(Cefamezin, 略 CEZ)、第2世代としてセフメタゾン(Cefmetazon, 略 CMZ)など。第3世代としてセフォペラジン(Cefoperazin, 略 CPZ)など。合剤としてスルペラゾン(Sulperazon, 略 SBT/CPZ)など。オキサセフェム系としてフルマリン(Flumarin, 略 FMOX)など。
- ③カルバペネム系：チエナム(Tienam, 略 IPM/CS)、カルベニン(Carbenin, 略 PAMP/BP)、メロペン(Meropen, 略 MEPM)など。
- ④アミノグリコシド系：トブラシン(Tobracin, 略 TOB)、ハベカシン(Habekacin, 略 ABK)など。
- ⑤ペプチド系：塩酸バンコマイシン(Vancomycin, 略 VCM)など。
- ⑥その他：リンコマイシン系のダラシン S(Dalacin S, 略 CLDM)、ホスホマイシン系のホスミシン S(Fosmicin S, 略 FOM)など。

耳垢水(じこうすい)  
小柴胡湯(しょうさいことう)  
洗口剤と液体歯磨剤

液状歯磨剤

液体歯磨剤

zeruminales Wasser[独]耳垢軟化剤  
慢性肝炎の治療等に用いられる。インターフェロンとの併用禁忌。  
mouth wash[英]洗口剤 dental rinse[英]液体歯磨剤  
液状歯磨剤、液体歯磨剤(デンタルリンス dental rinse)、洗口剤(マウスウォッシュ mouthwash)に分類される。歯磨剤ではブラッシングが必要であるが、洗口剤ではブラッシングは不要である。薬事法により、歯磨類として医薬部外品または化粧品としての規制を受ける。  
液状ハミガキはライオン社の特許であり、他社からは出ていない。研磨材は、従来の練りハミガキのものとは全く違うシリカを使用している。(例)Brush Lion<sup>R</sup>(ライオン)  
dental rinse[英]洗口後にブラッシングする、あるいは適量を口に含んでからブラッシングするもの。研磨剤は含まれていない。なお、英語のリンス(rinse)は口すすぎの意であり、歯磨剤そのものを意味するものではなく、日本の業界で使用されているデンタルリンスは歯磨剤の呼称としては不相当であるとの指摘もある<sup>62)</sup>。

洗口剤	<p>①液体歯磨剤：(例)ハピカ<sup>R</sup>Hapica<sup>R</sup>(森下仁丹)、プラックス<sup>R</sup>Plax<sup>R</sup>(ジョンソン・エンド・ジョンソン)など。</p> <p>②デンタルリンス：歯や歯周ポケットをコートして菌の繁殖を抑える目的のもの。(例)G・U・Mデンタルリンス<sup>R</sup>(サンスター)、デンターシステムライオン薬用デンタルリンス<sup>R</sup>(ライオン)など。</p> <p>mouthwash, oral rinse[英]マウスウォッシュ (例)モンダミン<sup>R</sup>Mondamin<sup>R</sup>(アース製薬)、リステリン<sup>R</sup>Listerine<sup>R</sup>(ワーナーランバート輸入販売)、薬用リーチデンタルリンス<sup>R</sup>Reach dental rinse<sup>R</sup>(ジョンソン・エンド・ジョンソン)、アクアフレッシュ<sup>R</sup>Aqua-fresh<sup>R</sup>(サンスター)、クイックス<sup>R</sup>quicks<sup>R</sup>(ライオン)、アパガード<sup>R</sup>APAGARD<sup>R</sup>マウスウォッシュ(日本ゼトック製造、サンギ発売)など。</p> <p>エタノールの含有率が高いほど、一般に味刺激が強くなる。日本で売られているマウスウォッシュ中、最もアルコール含有率が高いのは、リステリンの18%(アメリカのリステリンは26.9%)である。日本の各製品のアルコールの含有率は平均15%程度であるが、誤嚥した際(特に幼児)には急性アルコール中毒に注意する。アルコールが配合されていない製品もある(アパガードマウスウォッシュなど)。なお、リステリン<sup>R</sup>には、ポピドンヨード剤(イソジンガーグル<sup>R</sup>)の50倍希釈液に匹敵、あるいはそれ以上の口腔細菌殺菌作用があるとの報告がある<sup>61)</sup>。</p>
ゾビラックス <sup>R</sup>	<p>Zovirax<sup>R</sup>[英]一般名aciclovir(アシクロビル)。抗ウイルス薬の一つ。ヘルペスウイルス感染症に有効。ビダラビン軟膏の項参照。</p>
鎮咳剤(ちんがいざい) トランキライザー	<p>antitussive(アンチタツシブ)[英]咳(せき)をとめる薬 tranquilizer[英]精神安定剤 ハルシオン<sup>R</sup>Halcion<sup>R</sup>(一般名トリアゾラム triazolam)とエタノールの併用は、鎮静効果に著しい増強作用がみられるので注意する。</p>
トローチ	<p>troche[英]抗生物質入りのトローチには、アクロマイシン<sup>R</sup>(Achromycin)トローチ(15mg)、ネオ・ロイコマイシンH<sup>R</sup>(Neo・Leucomycin H)トローチ(4mg)、複合トローチ<sup>R</sup>(Gramicidin S 1mg・Fradiomycin 2.5mg)、バシトラシン<sup>R</sup>(bacitracin)トローチ(250単位)などがある。</p>
ネオミノ	<p>Stronger Neo Minophagen C<sup>R</sup>[商]強力ネオミノファーゲンシー<sup>R</sup>。慢性肝疾患における肝機能異常の改善に用いられる。</p>
バファリン <sup>R</sup>	<p>Bufferin<sup>R</sup>[商]アスピリンを主成分とする非ピリン系の解熱鎮痛薬。錠はアスピリン330mgを含む。血小板凝集抑制作用も有する。アスピリンの項参照。Children's Bufferin<sup>R</sup>[商]小児用バファリン<sup>R</sup>(アスピリン81mg含有)</p>
プロポフォール	<p>Propofol[英]超短時間作用性の静脈麻酔薬。1995年12月からわが国でも使用可能になった。作用発現時間が短い、作用持続時間が短い、蓄積性が低いなど、調節性に富み、麻酔の維持に使用することができる。他にも、覚醒の質が高い、気道反射抑制が高い、脳代謝を抑制するなどの特徴をもつ。調節性に富むため、吸入麻酔薬を使いにくいICUの鎮静にも適応がある。</p>
ペリオクリン <sup>R</sup>	<p>Periocline<sup>R</sup>[商]一般名歯科用塩酸ミノサイクリン軟膏。DDS(drug delivery system)に基づく歯周炎治療薬の一つ。</p>
ペンレス <sup>R</sup>	<p>Penles<sup>R</sup>[商]リドカインを含む貼付剤。静脈留置針穿刺予定部位に約30分間貼付。</p>
ボスミン <sup>R</sup>	<p>Bosmin<sup>R</sup>[商]エピネフリン注射液(1mg/A/1ml)。 ①アナフィラキシーショックに対しては、ボスミンを0.2ml(1/5A)-0.5ml(1/2A)皮下注か筋注する。始めは0.2ml(1/5A)程度が安全である。 ②蘇生等の緊急時は、1回0.25mg(1/4A)以下を生食等で希釈し、できるだけゆっくり静注する。必要あれば5-15分ごとに繰り返す。 ◇ アドレナリン(adrenaline)は高峰讓吉博士の命名である。米</p>

	<p>国と(なぜか)日本の薬局方ではエピネフリン(epinephrine)という名で呼ばれるが、英、独、仏の薬局方ではアドレナリンの名が用いられている。</p>
ボルタレン <sup>R</sup>	<p>Voltaren<sup>R</sup>[商]一般名はフェニル酢酸類のジクロフェナクナトリウム(diclofenac sodium)。NSAIDsの一つ。錠 25mg、SR カプセル(徐放性)37.5mg、坐薬 12.5mg, 25mg, 50mg。坐薬は、幼小児・高齢者または消耗性疾患の患者について過度の体温下降・血圧低下に注意する。</p>
ボルタレンSR <sup>R</sup>	<p>Voltaren SR<sup>R</sup>[商]ボルタレンの徐放剤。SR カプセル 37.5mg。ボルタレンの項参照。</p>
マル麻	<p>narcotic drugs[英]麻薬</p> <p>①塩酸モルヒネ(塩酸モルヒネの項参照)</p> <p>②MS コンチン<sup>R</sup>(MS Contin<sup>R</sup>): 徐放錠 10・30・60mg 1日 20-120mg 分2。硫酸モルヒネ(morphine sulfate)徐放剤の一つ。</p> <p>③アンベック<sup>R</sup>(Anpec<sup>R</sup>)坐薬: 坐薬 10・20mg 1日 30-60mg を3回に分割し直腸内投与する。塩酸モルヒネ坐薬の一つ。</p>
眠剤(みんざい)	<p>hypnotics[英]催眠(薬)剤、睡眠薬</p> <p>現在では睡眠薬の主役は抗不安薬(トランキライザー)であるベンゾジアゼピン系薬物に移っている。この薬物は副作用が少なく、REM睡眠の抑制が少ないなど比較的自然の睡眠に近い睡眠が得られる。(例)ハルシオン<sup>R</sup>Halcion<sup>R</sup>(超短期作用型)、リスマー<sup>R</sup>Rhythmy<sup>R</sup>(短期作用型)など。</p>
メイロン <sup>R</sup> モルヒネ	<p>Meylon<sup>R</sup>[商]8.4%重曹水。ABCの項参照。</p> <p>morphine[英]塩酸モルヒネ(morphine hydrochloride)</p> <p>①錠 10mg、末 1回 5-10mg 1日 15mg</p> <p>②注 10mg/1ml, 50mg/5ml</p> <p>アヘン中に含まれる代表的アルカロイド。意識、知覚、運動機能に影響しない少量(成人に 5-10mg)の投与で選択的に痛覚の感受性を低下させ、あらゆる疼痛に有効な鎮痛薬となる。</p> <p>◇ 標準的には成人の場合、30mg/日から開始する。最初は、1-2日分ずつ小刻みに処方し、痛みの消長を観察しながら用量を50%ずつ増加する。50%増して不足な場合には2倍増にする。</p> <p>◇ モルヒネは少し苦みがあるので、味付けに工夫が必要である。そのため、単シロップ(s.s.)などと混合して投与する。</p>
ラシックス <sup>R</sup>	<p>Lasix<sup>R</sup>[商]一般名は furosemide(フロセマイド)。代表的な利尿薬の一つ。</p>
A Z T	<p>zidovudine[英]ジドブジン、アジドチミジン。抗ウイルス薬の一つ。HIV 感染症に用いられる。カクテル療法の項参照。(例)レトロビル<sup>R</sup>(Retrovir<sup>R</sup>)</p>
DDI	<p>didanosine[英]ジダノシン。抗ウイルス薬の一つ。HIV 感染症に用いられる。カクテル療法の項参照。(例)ヴァイデックス<sup>R</sup>(Videx<sup>R</sup>)</p>
E P O、E S P O	<p>erythropoietin[英]エリスロポエチン。自己血輸血の項参照。</p> <p>(例)エスポー<sup>R</sup>(Espo<sup>R</sup>)皮下用(6000IU, 9000IU, 12000IU, 24000IU)。自己血貯血の場合、Hb13g/dl 未満の患者には初回採血1週間前から、Hb13-14g/dl の患者には初回採血後より、成人 24000IU/週 1回、最終採血時まで皮下投与する。</p>
5-HT <sub>3</sub> ブロッカー	<p>5-HT<sub>3</sub>-receptor antagonist[英]5-HT<sub>3</sub>受容体拮抗薬、セロトニン受容体拮抗剤</p> <p>シスプラチンをはじめとする抗悪性腫瘍剤は、増殖の盛んな消化管粘膜に蓄積し、粘膜内の腸クロム親和性細胞(EC細胞)に作用してセロトニン(5-HT)を遊離させる。セロトニンは、消化管において求心性腹部迷走神経末端に存在する 5-HT<sub>3</sub>受容体に作用し、この刺激が直接あるいはCTZに存在する 5-HT<sub>3</sub>受容体を介して嘔吐中枢に達し、嘔吐を誘発すると考えられている。</p> <p>(例)Nasea<sup>R</sup>(ナゼア<sup>R</sup>)、Kytril<sup>R</sup>(カイトリル<sup>R</sup>)、Serotone<sup>R</sup>(セロトーン<sup>R</sup>)、Zofran<sup>R</sup>(ゾフラン<sup>R</sup>)など。</p>
H <sub>2</sub> ブロッカー	<p>H<sub>2</sub>-receptor antagonist[英]H<sub>2</sub>受容体拮抗薬</p> <p>いわゆる抗ヒスタミン薬はヒスタミンの胃酸分泌刺激作用に対す</p>

る拮抗作用がなく、H<sub>1</sub>受容体拮抗薬に属する。これに対し胃酸分泌抑制作用を有するH<sub>2</sub>受容体拮抗薬として1972年ヒスタミン類似の化学構造をもつブリアミドが発見された。その後、より安全で胃酸分泌抑制作用の強力なシメチジン、ラニチジン、ファモチジンが開発され、消化性潰瘍の画期的な治療薬として登場した。(例)Gaster<sup>R</sup>(ガスター<sup>R</sup>)、Zantac<sup>R</sup>(ザンタック<sup>R</sup>)

MRSA の抗菌剤治療<sup>59)</sup>

1) 単独投与

- ・バンコマイシン(Vancomycin)：現在最も有力なMRSA治療薬である。1日量(成人)2gを2-4回に分け、60分以上かけて点滴投与する。副作用が強いため、肝、腎の機能検査を行う。
- ・ニューキノロン(New Quinolone)：Tosufloxacin(オゼックス<sup>R</sup> Ozex)、トスキサシン<sup>R</sup>(Tosuxacin)、Lomefloxacin(バレオン<sup>R</sup> Bareon)、ロメバクト<sup>R</sup>(Lomebact)等。
- ・ミノサイクリン(Minocycline)：ミノマイシン<sup>R</sup>(Minomycin)など。
- ・リファンピシン(Rifampicin)
- ・アルベカシン(Arbekacin)：ハベカシン<sup>R</sup>(Habekacin)など。
- ・テイコプラニン(Teicoplanin)：治験中

2) 併用療法

- ・Vancomycin - New Quinolone
- ・Vancomycin - Minocycline
- ・Imipenem/CS - Minocycline
- ・Imipenem/CS - Cefotiam
- ・Fosfomycin - Cefmetazole
- ・Fosfomycin - Flomoxef

(例)Imipenem/CS:チエナム<sup>R</sup>(Tienam)など。Fosfomycin:ホスミンS<sup>R</sup>(Fosmicin-S)など。Cefotiam:パンスポリン<sup>R</sup>(Pansporin)など。Cefmetazole:セフメタゾン<sup>R</sup>(Cefmetazon)など。Flomoxef:フルマリン<sup>R</sup>(Flumarin)など。

NSAIDs

nonsteroid antiinflammatory drugs[英]非ステロイド性抗炎症薬 NSAIDsは血漿蛋白と結合し、経口糖尿病薬(SU剤のトルブタミド tolbutamide など)や抗凝固薬(ワルファリン Warfarin など)の作用を増強するので、併用は注意を要する。ニューキノロン剤との併用は中枢性痙攣発作発現の恐れがあるので注意する。また、NSAIDsは、長期連用により消化性潰瘍を誘発することがあるので注意を要する。

1) 酸性抗炎症薬

①サリチル酸：アスピリン aspirin、②フェナム酸：Pontal<sup>R</sup>(ポントール<sup>R</sup>)など、③アリール酢酸：Voltaren<sup>R</sup>(ボルタレン<sup>R</sup>)、Fenazox<sup>R</sup>(フェナゾックス<sup>R</sup>)、Infree<sup>R</sup>(インフリー<sup>R</sup>)、Hypen<sup>R</sup>(ハイベン<sup>R</sup>)など、④プロピオン酸：Ropion<sup>R</sup>(ロピオン<sup>R</sup>)、Froben<sup>R</sup>(フロベン<sup>R</sup>)、Loxonin<sup>R</sup>(ロキソニン<sup>R</sup>)など、⑤ピラゾロン、⑥オキシカム

HR

2) 塩基性抗炎症薬

insulin injection[英]Humulin R<sup>R</sup>(ヒューマリンR<sup>R</sup>、速効型インスリン)。代表的なインスリン注射液の一つ。

(関)Humulin U<sup>R</sup>(ヒューマリンU<sup>R</sup>、遅効型インスリン)

【血糖変動に対するスライディングスケールの例】<sup>10)</sup>

血糖(mg/dl)	皮下注射	点滴内投与(追加量)
150以下	なし	-4U
150-200	2-4U	±0U
201-250	4-6U	+4U
251-300	6-8U	+6U
301以上	8-12U	+8U

(速効型インスリン量を表す)

◇ インスリン自己注射器には、ノボペン<sup>R</sup>Ⅲ(NovoPen<sup>R</sup>Ⅲ)、オートペン<sup>R</sup>(Autopen<sup>R</sup>)などがある。在宅医療の項参照。

PGE1

prostaglandin[英]プロスタグランジンE1

末梢血管拡張作用、血小板凝集抑制作用、赤血球変形能改善作用、活性酸素産生抑制作用を有する。外科手術時の低血圧維持、皮弁の血流維持、CDDPの腎毒性軽減などの目的で使用される。

(例) Prostandin<sup>®</sup> (プロスタンディン<sup>®</sup>)

◇ 昔から、妊娠末期の出産予定日に性交すると早く子供が生まれるということがあったらしい。そのいわれがPG(プロスタグランディン)の発見のきっかけであると、PGの発見の歴史には書いてある<sup>29)</sup>。

◇ PGは人の精子に含まれ子宮を収縮させる物質として発見され、その後の研究で生体のあらゆる細胞が産生することが分かってきた<sup>29)</sup>。

S T H  
S U 剤

steroid hormone[英]ステロイドホルモン

sulfonyl urea[英]スルフォニル尿素剤 (経口糖尿病薬)



## 第17章. 輸血・骨髄移植

クリオ製剤	cryoprecipitate[英]寒冷沈殿反応を受けた正常血漿に生じる沈殿物から製造された抗血友病血液製剤。
クロス血液銀行	cross-matching[英]交叉試験法 blood bank[英] 全血製剤、血液成分製剤は血液銀行から供給される。
血液製剤	blood products, blood preparations[英]ヒトの血液を原料として製造した製剤で、CPD加新鮮血液、ヘパリン加新鮮血液、保存血などの全血製剤、血液を赤血球、血小板、血漿といった成分に分けてつくった血液成分製剤、ヒト血液を原料として血漿を分画してグロブリン、アルブミン等に分画濃縮した血漿分画製剤の3種に分類される。
血小板輸血 臍帯血移植	platelet transfusion[英] umbilical cord blood transplantation[英]臍帯血を造血幹細胞源として患者に移植することを臍帯血移植という。赤ちゃんのへその緒(臍帯=さいたい)や胎盤に残った血液を臍帯血という。臍帯血は造血幹細胞を大量に含んでいる。
自家骨髄移植	bone marrow transplantation[英]大量化学療法や全身放射線照射を行う前に骨髄を採取して凍結保存しておき、治療後白血病が死に絶える時期に骨髄細胞を戻してやる治療法で、腫瘍性クローン根絶させねば治療効果が得られない慢性骨髄性白血病等に効果がある。最近では末梢血中の幹細胞移植も行われている。
自己血(じこけつ)	autotransfusion[英]自己血輸血 (関)autologous transplantation[英]自家移植 輸血を予測してあらかじめ自己の血液を貯血しておき、必要時に輸血すること。通常は、外科手術に際して、術前に自己血を採取し保存しておいて、手術の際に患者に戻す方法が最も利用価値が高い。血液の保存は、抗凝固剤としてCPD液を用いて4℃で冷蔵保存する方法が簡便なので広く用いられている。CPD液は有効期限が21日間と定められているので、冷蔵保存する自己血の保存期間もこの場合最大21日になる。術前3週間という限られた期間内に最大量の採血を可能にするためにEPO(エリスロポエチン erythropoietin)投与を併用することは極めて有用である。エスポーの項参照。 ◇ これまで主に外科系の領域で同種血輸血が担癌症例の術後再発率を高める、あるいは予後に負の影響を及ぼすことを示唆する成績が発表されている(1998.3.14第11回日本自己血輸血学会総会ランチョンセミナーより)。
赤血球濃厚液 全血	packed red cells[英] whole blood[英]全血液製剤 採血された血液を成分に分けず、血漿と赤血球をそのまま含んだ製剤である。赤血球成分と血漿成分とを同時に必要な限り適応になる。
全血輸血 造血幹細胞 代用血液 代用血漿 多血小板血漿(PRP) ドナー 輸血	whole blood transfusion[英] hemopoietic stem cell[英] blood substitute[英] blood plasma substitute, plasma expander[英] platelet rich plasma[英] donor[英]提供者 (反)recipient blood transfusion[英]輸血には、受血者本人からの自家輸血 (autologous blood)と他人からの同種輸血 (homologous blood)がある。主に後者が用いられる。出血のような急性貧血の場合、600mlの出血までは輸液で対応し、それ以上1200mlまでは濃厚赤血球を、そして、1200mlを超える出血の場合にはじめて全血製剤を併用する。 【輸血量算定法】 <sup>48)</sup> ①Hbを用いる方法 輸血必要量=(目標Hb量%-患者Hb量%)×体重(kg)

②Ht を用いる方法

輸血必要量=(目標Ht量%-患者Ht量%)×2.2×体重(kg)

③赤血球数を用いる方法

輸血必要量=1.5× $\frac{\text{目標赤血球数}-\text{患者赤血球数}}{100}$

④血漿蛋白を用いる方法

輸血必要量= {目標血漿蛋白(g/100ml)-患者血漿蛋白(g/100ml)} ×13ml×体重(kg)

【血小板輸血】<sup>10)</sup>

血小板輸血の効果は、PCの1単位に含まれる血小板数が2~3×10<sup>10</sup>個として、下記の計算を参考に予測する。

予測増加値(/μg)= $\frac{\text{輸血された血小板数} \times 2 \times 10^{-3}}{\text{循環血液量(ml)}} \times 3$

【輸血時の注意点】<sup>53)</sup>

・血液製剤と注射液やブドウ糖との混合は溶血や凝血を起こすので避ける。生理食塩水等の電解質輸液で血管確保を行うか、ルート内をこれらの液で満たしてから輸血を開始する。

・他の薬剤との混合を避けるため、輸液専用の末梢ルートを確認することが望ましい。

・原則的には、5-10ml/kg/時程度が通常時の基準である。

・急速輸血で成人5.0ml/kg/時(小児1.5ml/kg/時)以上で輸血する時は、37℃で加温が必要である。加温器には、ウォーマーコイル、アニメックなどがある。

・輸血開始後10-15分間は15-20滴/分で滴下し、5分間はベッドサイドで観察し(重篤な副作用は輸血開始直後に起こる)、指示された滴下数とする。

・心疾患、高齢者、慢性出血患者への輸血は、1日400ml前後をゆっくり輸血する。

◇ 数年前の手術中に多量の輸血を受けた女性が献血血液によりHIVに感染した疑いが強まり、1997年9月30日に開かれた厚生省エイズサーベイランス委員会に報告された(1997.9.30読売新聞より)。

レシピエント

AHF

AHG

BET

BMT

allo-BMT

auto-BMT

BV

CPD solution

CRC

FFP

FP

G-CSF

recipient[英]受給者 (反)donor

antihemophilic factor[英]抗血友病因子

antihuman globulin[英]抗ヒトグロブリン

blood for exchange transfusion[英]合成血

bone marrow transplantation[英]骨髄移植

骨髄穿刺によって骨髄液を500-1000ml採取し、患者の動脈内に輸注して造血幹細胞を移植すること。

allogeneic bone marrow transplantation[英]同種骨髄移植

autologous bone marrow transplantation[英]自家骨髄移植

blood volume[英]血液量

citrate phosphate dextrose solution[英]クエン酸・リン酸・ブドウ糖液

抗凝固剤として、ACD液、CPD液、ヘパリン液を加えたものがあるが、現在ではCPD液を加えたものが使用されている。CPD加血液の場合、ACD加血液に比べ赤血球の保存状態がよく、特に赤血球の2,3-DPG(diphosphoglycerate)の減り方が少ない。

◇ ヘパリン加血液は、体外循環装置を使用した手術や交換輸血の際など特殊な場合に用いられる。

concentrated red cells[英]濃厚赤血球

fresh frozen plasma[英]新鮮凍結血漿

fresh plasma[英]新鮮液状血漿

granulocyte colony-stimulating factor[英]顆粒球コロニー刺激因子

末梢血幹細胞(PBSC)は骨髄だけでなく末梢血にもごく少数ながら存在し、骨髄抑制的な癌化学療法後の造血回復期に一過性ながら著明に増加するが、G-CSFを併用するとPBSCの一過性増加はさらに促進される。アンサーの項参照。

H p - F  
L P R C  
M A P 血

heparinized fresh whole blood[英]ヘパリン加新鮮血液  
Leukocyte poor red cells[英]白血球除去赤血球  
Red Cells M・A・P (RC-M・A・P) (赤血球M・A・P〔日赤〕)  
赤血球保存液(MAP液)を添加した日赤の赤血球製剤。Htは約60%、有効期間採血後42日間である。貧血、手術時、外傷性出血など赤血球の補給を必要とする場合に用いられる。  
(関)MAP液 (mannitol-adenine-phosphate)[英]赤血球保存剤の一つ

◇ 従来の濃厚赤血球(CRC)の有効期限は、21日間と短く、製剤中に輸血副作用の原因となる白血球、血小板および多量の血漿成分が残存していた(90%以上)。これらの問題点を解決するため、強遠心し、血漿をできるだけ除去し、さらに血小板を含む白血球層(90%)を除去した赤血球層にMAP液を添加して42日間の保存を可能としたのがMAP血であり、現在、赤血球輸血の主流として用いられている。

P B S C  
P B S C T

peripheral blood stem cell[英]末梢血幹細胞  
peripheral blood stem cell transplantation[英]末梢血幹細胞移植

P C  
P C - H L A  
W B  
W B - F  
W R C

platelet concentrate[英]濃厚血小板  
platelet concentrate HLA[英]濃厚血小板 HLA  
stored whole blood-CPD[英]保存血液 CPD  
fresh whole blood-CPD[英]CPD加新鮮血液  
washed red cell[英]洗浄赤血球